



250号

2021年

2月10日

発行所 岡山大学職員組合

〒700-8530 岡山市北区津島中 2-1-1

電話 086-252-1111 (代)

7168 (内線)

直通 TEL&FAX 086-252-4148

ホームページ <http://hb4.seikyuu.ne.jp/home/ODUnion/>

メールアドレス ODUnion@mb4.seikyuu.ne.jp

目次： 1：委員長あいさつ 1~4：センター試験の入試手当についての質問書の回答と解説
4~6：教職分離についての学習会報告 6~7：寄稿「野菜三昧」 7：非常勤講師手当 8：旅日記

2021年

安心して生活できる労働条件を
充実した仕事ができる労働環境を
岡山大学職員組合に参加して実現しましょう！



新年明けましておめでとうございます。
本年もどうぞよろしくお願いいたします。
2020年は、新型コロナウイルス感染の拡大という、私たちの予想を遙かに超える厄災に見舞われ、これまで当たり前だと信じていた日常が失われ、生活のあらゆる場面で多くの変革を求められることになりました。教職員も学生も少なからぬストレスを溜め込み、心身共に疲弊する日々が続いています。

このような大変な状況にあっても、いや、だからこそ、岡山大学職員組合は、私たちが重点課題として取り組んでまいりました諸課題について、そして新たに露呈してきた課題について、大学当局への要望、交渉を積み重ね、その使命を果たすための活動の歩みを止めることの無いようにしてきました。

各単組におかれましても、それぞれの事情の中で、それぞれの課題に向き合いながら、今こそより良い職場環境へとシフトチェンジするチャン

スととらえて積極的な活動をされたり、対面の機会が激減する中、職員間のコミュニケーションや心身のリフレッシュに向けての取り組みを工夫されたりとの報告も受けております。

また未曾有の経験を乗り越えていく上で、岡山大学がその役割を着実に果たしていくためにも、ここに働くすべての人たちへの視線と細やかな配慮を大学当局に求めつつ、共により良い方向へと舵を切っていけるように職員組合としての役割を果たしていきたいと考えています。

まだまだ予断を許さぬ状況の中、様々な問題がこれからも起こると思います。そのような中で、頼れる職員組合となれるよう2021年も、一人でも多くの仲間とともに手を取り合っていきたいと考えています。

2021年1月

岡山大学職員組合 執行委員長 大橋 功

センター試験手当廃止，超過勤務手当対応で 人件費約半分に

岡山大学では、2019年1月に実施されたセンター試験までは、センター試験当日に試験監督等を行なった人には1日12,000円、半日の補助監

督者には6,000円のセンター試験手当が支払われていました。ところが2020年1月に実施されたセンター試験ではこのセンター試験手当が廃止

され、センター試験の日に試験監督等を行う人はこの日が勤務日となり、勤務が7時間45分を超えた場合に残業手当が出るというように制度が変わりました。なお勤務が4時間未満の人は勤務日ではなく、休日給として時間給で支払われるということになっていました。

2021年1月に実施されたセンター試験からは勤務時間が短い場合も勤務日扱いとなり、勤務が7時間45分を超えた場合のみ残業手当が出るという制度にさらに変更されています。

組合はそもそもセンター試験手当の廃止も直前まで知らされず、2020年のセンター試験後2月6日の団体交渉ではセンター試験手当廃止は不利益変更であるということで手当を廃止しないよう交渉しましたが聞き入れられませんでした。その団体交渉で、実際に2019年1月のセンター試験でのセンター試験手当にかかった金額と2020年1月のセンター試験で支払われた残業手当の総額を聞きました。その回答が届きましたのでお知らせします。

まず質問は以下のようになります。

■2019年1月の入試センター試験について

1. 入試センターから岡山大学へ支払われた経費の金額
2. センター試験手当として配分した総額
3. センター試験手当の業務と金額ごとの人数分布
4. センター試験手当以外にかかった経費の内訳とその金額

■2020年1月の入試センター試験について

5. 入試センターから岡山大学へ支払われた経費の金額
6. センター試験時の超過勤務手当として配分した総額
7. センター試験時の超過勤務時間の業務と時間ごとの人数分布
8. センター試験時の超過勤務手当の業務と時間ごとの人数分布
9. 超過勤務手当以外にかかった経費の内訳とその金額

それに対する回答が以下になります。

■2019年1月の入試センター試験について

1. 16,274,156円
2. センター試験手当として配分という概念はありません。大学全体の人件費から同手当として必要が生じた分を執行した結果があるのみです。
3. 別紙1のとおり
4. 4,593,426円（試験準備のための消耗品、警備、弁当代等があります。また、翌年より多いのは、隔年開催の試験実施説明会の会場借り上げやそのための出張によるものです。）

■2020年1月の入試センター試験について

5. 14,804,630円
6. 2. で回答した内容と同様です。
7. 別紙2のとおり
8. 別紙3のとおり
9. 3,626,137円（内訳は前年と同様です。）

2019年1月実施のセンター試験に関してセンター試験手当として支払った総額は別紙1,別紙2から計算することができます。総額は13,122,000円です。それ以外の経費4,593,426円と合わせるとセンター試験実施に関して岡山大学でかかった経費の総額は17,715,426円になります。入試センターから岡山大学に支払われたのが16,274,156円ですので、1,441,270円の赤字であったということになります。

一方、2020年1月実施のセンター試験では、実際の超過勤務手当として支払われた総額の正確なところはわかっていません。大学からの回答として得られた別紙2,3から、おおよそのところを計算すると、おおよそ600万前後ではないかと

思われます。2019年1月のセンター試験手当の総額が約1,300万円ですから半分弱というところでしょうか。人数的にみると、2020年にはセンター試験当日に勤務した人のうち約25%の人が超過勤務手当は全くもらっていません。全体の85%は超過勤務手当が12,000円以下となっています。つまり、2019年と同じ勤務を行っているのに、受け取った手当、つまり給与が減っている人が85%程度いるということです。センター試験手当廃止があきらかに人件費削減につながっていることがわかります。



(次頁下段に続きます)

別紙1

1日目

	監督者	監督補助者	実施要員
12,000	213		344
6,000		8	
4,000			

2日目

	監督者	監督補助者	実施要員
12,000	173		339
6,000		41	
4,000			

別紙2

1日目

	監督者	監督補助者	実施要員
0時間	26	20	32
0時間超1時間以下	86	30	48
1時間超2時間以下	38	6	69
2時間超3時間以下	3(1)	0	50
3時間超4時間以下	1(1)	1	48
4時間超5時間以下	6	0	38
5時間超6時間以下	0	0	18
6時間超7時間以下	0	0	3

()内は休日給対応で外数

2日目

	監督者	監督補助者	実施要員
0時間	90	0	93
0時間超1時間以下	34	0	24
1時間超2時間以下	7	0	99
2時間超3時間以下	0	0(10)	69
3時間超4時間以下	0(8)	0(28)	19(1)
4時間超5時間以下	0	0	1
5時間超6時間以下	0	0	3
6時間超7時間以下	0(9)	0	0(3)
7時間超8時間以下	0	0	0(1)

()内は休日給対応で外数

別紙3

1日目

	監督者	監督補助者	実施要員
0円	26	20	32
0円超2,000円以下	0	0	9
2,000円超4,000円以下	52	20	53
4,000円超6,000円以下	35	14	38
6,000円超8,000円以下	21	2	37
8,000円超10,000円以下	14(1)	0	36
10,000円超12,000円以下	5	0	28
12,000円超14,000円以下	1	1	24
14,000円超16,000円以下	0	0	17
16,000円超18,000円以下	0(1)	0	8
18,000円超20,000円以下	3	0	8
20,000円超	3	0	16

2日目

	監督者	監督補助者	実施要員
0円	90	0	93
0円超2,000円以下	0	0	0
2,000円超4,000円以下	17	0	28
4,000円超6,000円以下	17	0	58
6,000円超8,000円以下	1	0	46
8,000円超10,000円以下	6	0(2)	58
10,000円超12,000円以下	0(1)	0(4)	12
12,000円超14,000円以下	0(6)	0(11)	8
14,000円超16,000円以下	0	0(9)	1(1)
16,000円超18,000円以下	0(6)	0(11)	1
18,000円超20,000円以下	0	0	1
20,000円超	0(9)	0(4)	0(4)

組合として特に問題だと思ふのは、2020年1月以降、超過勤務手当での対応としたことでセンター試験(2021年からは共通テストですが)にかかった人件費の計算があいまいになっていることです。組合からの2番目の質問の「センター試験手当として配分した総額」という質問に対する大学の回答の「センター試験手当として配分という概念はありません。大学全体の人件費から同手当として必要が生じた分を執行した結果があるのみです。」から、大学がセンター試験業務を本務の一つとみなしていることがわかります。センター試



験業務は入試センターから経費が支払われている業務です。入試センターからの経費内で実施できたのか、それともその経費内でおさまらず大学の経費も使ったのか、大学の経費を使ったのであればそれがいくらであったのかを大学はしっかりと把握すべきです。それが経営というものではないでしょうか。ところが、今回超過勤務手当対応としたために、その超過勤務手当の部分が部局扱いになり、センター試験業務でどれだけの超過勤務手当が発生したのかを大学が把握していませんでした。だからこの組合からの質問に対する回答がこのように遅くなったのです。

2019年1月実施のセンター試験に比べて2020年1月実施のセンター試験では入試センターから岡山大学に支払われた金額が減っています。その理由はこの情報だけではわかりませんが、もしそれにより大学の経費をこれまで以上に持ち出さねば実施できないのであれば、まずは、経費の額についてしっかりと交渉して大学からの持ち出しを減らすように努力するというのが一般的な考え方です。そのためにはセンター試験(共通テスト)実施のためにどれだけの経費がかかるの

かを把握している必要があります。

センター試験(共通テスト)を実施するために、教職員は時間を使っています。時間というのはすなわちコストです。超過勤務手当が発生しなかったらかかった人件費はゼロ、ではないのです。センター試験(共通テスト)実施に時間を使えば、他の業務に使える時間が減ります。特にほとんどの教員の場合、研究時間が減ることになるでしょう。時間はコストである、という意識が今の岡山大学には希薄なのではないかと思わざるを得ません。



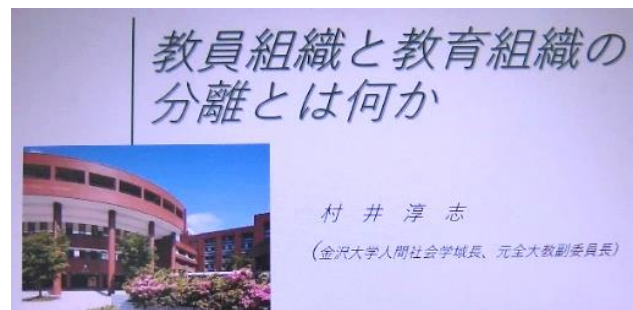
1/19 教教分離についての学習会を開催

岡山大学では2021年4月から教育組織と教員組織の分離、すなわち教教分離が実施されます。2021年4月にはとりあえず形だけの教教分離を行い、2年かけて大学院改革と一緒に実質化する計画と聞いています。教教分離とはいったい何で何のために行われるものなのでしょうか。そのメリットは何でしょうか。デメリットはないのでしょうか。

これらの疑問に対する答えをさぐるために、2021年1月19日に「教員組織と教育組織の分離とは何か」と題した学習会をZoomで行いました。講師はすでに2008年に教教分離を実施した金沢大学の村井淳志さんです。村井さんは現在金沢大学で人間社会学域長と研究域長を兼務されています。参加者は16人でした。

村井さんによると、教教分離の目的は新しい学部を作りやすくなる、その1点だということです。大学において学部などの新たな教育研究組織を創設する場合には、大学設置基準に示された、設備、人員など多くの条件をクリアしなければならず、何度も文科省と折衝し、大変な事務手続きが必要でした。しかし、教教分離の目的の一つには、時代の要請や解決すべき課題に対応する柔軟な組織の組み替えや創設が迅速に行えるようにすることにあります。そこで教教分離の下で新たな教育研究組織を作る場合には、大学設置審の厳しい条件に照らした審査を経なくても良いように制度設計されています。

このことは、うまく回れば社会の変化にいち早く対応し適切な教育を行うことができるような組織を作ることができるということであり、逆に下手をすると単に流行りに乗った一過性の教育を行うような組織を作ってしまう危険性があるということでもあります。



教教分離は、教員の組織と教育の組織を別々にして自由な組み合わせができるということが利点だと言われていますが、村井さんによると、やはり一番うまくいくのは現在の学部をそのまま反映したような教員組織と教育組織が一对一関係になるような組織だそうです。例えば会議一つにとっても、ある教員組織に属する教員とある教育組織に関係する教員が全く同じの場合、この二つの組織の会議を同じ日に連続して行うことが可能です。しかし、もしある教育組織に関係する教員が複数の教員組織に属していたら、すべての人が出席できる会議日を調整するだけでも大変になっているそうです。

今回の学習会は、参加者はそれほど多くはありませんでしたが、活発に質問や意見交換がなされ、充実した学習会になりました。また、岡山大学内からだけでなく高知大学教職員組合からも参加があり、高知大学の事例の紹介もしていただきました。高知大学でも金沢大学と同じ2008年に教教分離がなされていますが、金沢大学が教員の人事権を教員組織側が持つのに対し高知大学では人事権を教育組織側が持つ、という違いがあるということでした。一口に教教分離と言ってもその内容はさまざまであることがわかりました。岡山大学の教教分離がどんな形になるのか、組合としても注視していきたいと思えます。

教教分離についての学習会に参加して

金沢大が2008年から教教分離されており、その後のご経験を興味深く聞きました。金沢大では教員の本属は学域であり、学域の中に研究分野ごとの教員のまとまりとして系があるとのことでした。改組当初は、きっと何か改善されるという前向きの期待が多かったが、10年たつと、執行部にとって新学類設置(学部に対応)などが容易化されたこともあり、教員配置が簡単に変わる事があるとのことでした。また自分にとっては「新組織で会議が減る」というところに期待が大きかったのですが、学生への対応などが変わらないことと、教員が複組織所属であるため、会議が増えたと聞きました。この点は、後発の岡大はよく研究し、なんとしても抑制されるデザインが必要だと痛感しました。

(理学部 池田 直)

教教分離については実態があまりわからない点多々ありましたが、組合の学習会でだいぶイメージしやすくなりました。貴重な機会を用意していただいた組合の皆様に御礼申し上げます。

(環境理工学部 金 料哲)

4月から始まる「教教分離」：SDGsとTeaching Awardから考える グローバル・ディスカバリー・プログラム Chung, Haeng-ja 鄭 幸子

2021年4月から所属組織名変更を手始めに「教育」研究分野と「教員」組織の「教教分離」が始まる。2023年までに大学院改革とともに教教分離も完了予定ということで、組合主催の「教教分離についての学習会」(2021年1月19日)に参加した。「分離」の結果「域」や「系」が使われるようになって10年ほど経つ金沢大学の村井淳志さんは、人間社会研究域学校教育系教授で人間社会学域長と研究域長を兼務。新たな学問域を作りやすく「うまくいっていた」が、短所についても語ってくれた。岡山大学の教育研究評議会(2020年11月18日)の「案」では、教教分離の目的はSDGsを念頭に、教員が「何を教えたか」ではなく学修者が「何を学び、身に付けることができたか」を重視し、「多様な教員」による「多様な学生」への「多様な教育」が挙げられている。

こうした教育を実践してきたグローバル・ディスカバリー・プログラムで「学修者の主体的な学び」を念頭に置いた“Cross-Cultural Experiences”(多文化経験)が2020年度にTeaching Awardを受賞。SDGsの目標として「5. Achieve gender equality and empower all women and girls (ジェンダー平等の達成と子供を含むすべての女性に権限付与)」や「10. Reduce inequality within and among countries (国内および国家間の不平等是正)」等をシラバスに掲げているが、この二つを同時に取り組み事例は岡大でもまだ少ない。(https://sdgs.okayama-u.ac.jp/efforts/)



そこで二つの目標に有効な概念「複合差別」を紹介したい。例えば今学期は、女子生徒三人の物語「動かしつづける。自分を。未来を。The Future Isn't Waiting.」というコマーシャルについてディスカッションした。「学生からの質問を歓迎し学生間は勿論教員と異なる意見も言える safe space」作りを心がけてきた結果、様々な意見や疑問が出された。たった2分のビデオも捉え方は十人十色であることに学生達は驚愕し、agree to disagreeの重要性にも気づいた。学生の意見や疑問をもとに、さらにどんな知識や問いを投げ掛けるか判断し実践してきた結果が、Teaching Awardにつながったのだと思う。

多様性を育むには、想定外の学びを認める度量が各教員に求められる。学修者が「何を学び、身に付けることができたか」を重視するには、一律の評価軸(同化)を押し付けイノベーションの種を摘んでいないか、Self-Reflexivityが必須だ。「多様な教員」による「多様な学生」への「多様な教育」から生まれる結果は、必然的に「多様」なのだから。

多様性の担保には「複合差別」解決が必須だ。例えば女性の外国籍者が「女性差別」+「外国人差別」という複合差別のために不当に扱われないようにすれば、SDGsの5番と10番の目標に近づける。「日本人」「男性」の平均給与の高さや昇進は、「日本人」「男性」を無意識に優遇してきた結果と無関係ではあるまい。SDGsを目指すなら「意識していない差別」に目を向け気付く必要がある。まずは大学執行部が、採用、給与や昇進に

関する男女別民族別データをまとめアメリカの国公立大学のように公開し具体的な方策を実施することを勧める。大学の存在価値は、損得勘定ではなく真理（「正論」）を追求することにあるのだから。

「第15回女性研究者・技術者全国シンポジウム」(2020年12月12日)での講演「ダイバシ



ティについて ～ 国内外のマイノリティ女性研究者からの提言」(https://ad6f6c32-22ed-4738-b502-7d0748d20e75.filesusr.com/ugd/2d0f91_93eb9d09dd6d4d1b9b24a65385d7ea37.pdf) や2021年春に出版予定の拙稿『「あまりにも見事にくり返す」: 災害とマイノリティ女性と複合差別』(『2020年度 岡山大学全学教育・学生選機構教育研究紀要5巻』)などもご参照いただければと思う。



野菜三昧 ～トマト編～

農学部職員組合 安場 健一郎

もうかれこれ、野菜を毎年栽培し続けて30数年。まあ、仕事だからとはいえ、よくも飽きもせず作り続けてきたものだと思います。タイトル通りですが日々野菜三昧の生活を送っています。そこでせっかくなので、長年の経験を生かせるかどうか分かりませんが、野菜にまつわる豆知識を組合員の皆様にご紹介させていただこうかと思えます。厚生労働省では、一日あたり350gの野菜を食べることを目標としていますが、日本人の野菜の摂取量は300g以下で、昔(昭和のこと)に比べてはるかに少なくなっています。野菜三昧を読んでもらえば、八百屋さんやスーパーでの野菜の見方が変わって

(変わらなければすいません)、思わず手に取ってしまうかもしれません。ということで、今回は野菜の王様、「トマト」に関して紹介したいと思います。



トマトのハウス栽培の様子
(熊本県八代市)

トマトは野菜の王様

トマトは野菜の中では王様といってよいでしょう。まず、トマト(含ミニトマト)は日本人の最も購入金額が多い野菜です。野菜売り場を見てもトマトを見ない日はないですし、しかも、売り場の占有面積も野菜の中でかなり上位を占めるのではないかと思います。また、タキイ種苗さんが毎年実施しているアンケートの好きな野菜ランキングで11年連続一位を獲得していました(昨年、久しぶりにたまねぎに首位を明け渡したそうです)。なのですが、実は日本は世界的にはトマトを「食べていない」国に含まれています。一年にトマトを日本人は一人当たり10kg程食べているのに対し、世界平均ではその倍ほど食べています。

日本は生で食べる人が多いのですが、海外では加熱して食べる人が多いのがその理由ではないかと考えられています。実は、加熱して食べる理由があります。

実はトマトは西洋の昆布だし

料理を作る際に知らず知らず意識しているのが、甘味、塩味、酸味、苦味、うま味の5つの基本味ですね。トマトを食べるときも、甘味、酸味などを感じる人が多いと思いますが、野菜の中でもトマトはうま味成分がとても多いことが知られています。トマトのうまみ成分はアミノ酸の一種のグルタミン酸です。トマト以外にもグルタミン酸が含まれているものがありますが、トマトは一般的な野菜の中ではかなりの高含量になります。日本人は、昆布だしが好きですが、そのうまみ成分がまさにグルタミン酸です。海外、特に西洋では、昆布を利用するところはそれほど多くはありませんが、そういった国々でトマトを料理するのは知らず知らずの間うまみ成分を補っているのかもしれない。また、調理する際に加える肉類などに含まれるうまみ成分のイノシン酸との相乗効果でうまみを強く感じることもできます。



色々なトマト。左2つは日本の品種、真ん中2つはオランダの品種、右2つはミニトマト。オランダの品種は収量がものすごく多く、皮がオレンジ色なのが特徴。ミニトマトは普通のトマトより糖度が高くなりやすい。

トマトパスタで学生とのコミュニケーション

筆者のラボが野菜園芸学研究室ですので、伝統的に野菜好きの学生が集まってきましたが、実験で

余ったトマトを使って、時々、トマトパスタを作っていました。湯むきしたトマトを鍋に入れて焦げ付かないようにどろっとするまで煮詰めます。その煮詰めたトマトを炒めた玉ねぎとニンニクに入れて塩コショウで味付けして、ゆでたパスタにあえる、というだけのものです。トマトから出る水分だけで作るので濃厚な味になります。調理用にする場合は、あまり甘いトマトを使うと甘すぎるソースになるので、その場合は、レモン汁など酸味のあるもので味を調整するのが良いと思います。特別感を出すためにパスタはパスタマシンを使って手打ちで作ったりすると、みんなでワイワイ共同作業になり、おいしさも倍増ですね。たくさん作っておいて、翌日にベーコンやミンチ肉、野菜などを入れて味を変えて楽しんだりするのも楽しみの一つです。食のイベントを通して、研究室の輪がぐっと縮まるのを実感できる瞬間です(早くコロナが収まってほしいなあ...)



学生と作ったトマトパスタ。
パスタも手作りで作りました。

トマトの栽培

市販されているトマトはほとんどがハウス栽培です。冬は、暖房する必要がありますし、夏は裂果とよばれる果実の表面が割れる症状が出るのを防ぐために、ハウスの中で栽培するほうが作りやすいためです。トマトは夏の野菜のイメージがあると思いますが、岡山の夏の高温はトマトにとって暑すぎです。岡山県内で夏にトマトをつくっているのは蒜山などの涼しいところになります。あと、トマトは種をまいてから収穫できるまでの期間が長いことが特徴です。また、土の中にいる病原菌や細菌で大きくなってから枯れてしまうこともあります。

それらを踏まえてトマトを家庭で作る必要があります。春に、ホームセンターで苗を購入して、よく耕した畑もしくは大きめのプランタに植えるというのが良いとおもいます。種子を買ってきた場合は小さいポットに種をまいて苗づくりをする必要があるため、手間がかかります。苗を買ってくる場合には、接ぎ木してあるものを選びればその方が良いと思います。接ぎ木とは、病気に強いトマトの仲間の植物の根の上に食用のトマトの茎をくっつけたものです。トマトにはいくつか土から入り込む厄介な病気があり、それを防ぐためにも接ぎ木の方が安心ですね。栽培期間中に発生した病気や害虫に対しては殺菌剤や殺虫剤で対策する必要があります。化学農薬でも安全性に使用量・使用回数を守ればなにも問題はありますが、気になる人はオーガニック対応のもので対策されるのが良いとおもいます。

ちなみにプランタ栽培の場合は、水やりの量や液肥の濃さを変えることで品質の調節ができます。トマトは乾燥気味にしたり、少し濃いめの液肥をあたえると糖度がのりやすくなります(もちろん極端はダメです)。プランタだと、それらの調節がしやすいのでいろいろと試してもらえばよいのではと思います。農業試験場の研究者の人でも、実験用のトマト以外は濃いめの液肥をかけている人もいます。トマトには様々な品種があります、トマトの味の違いはスーパーで果実を購入するとわかりにくいですが、品種ごとに食べ比べると意外と違いがあることがわかります。家庭での栽培では好みの品種を作ったりできますので是非いろいろ試してもらえばと思います。



黄色いトマトで黄色いトマトソースを作ってみたけど、あまり黄色くならなかったのが残念。

2021年度：非常勤講師の授業改善手当は廃止、新たな手当創設予定

2020年12月4日の団体交渉で、現在非常勤講師に支給されている授業改善手当は今年度で廃止され、来年度からは別の手当を検討中であるということが明らかになりました(組合だより249号参照)。その手当の設計の進捗状況についての情報が入りましたのでお知らせします。

新しい手当の名称はまだ正式な決定がなされていないようですが、現在の方針では授業改善手当より金額は低くなるということです。これまで対象になっていなかった90分授業なども対象とし、一回の授業に対して手当をつける方針だということです。正式には3月に決定ということですが、すでに各部局にも通知しているということです。2021年度の非常勤講師を依頼される際には、手当てについて各部局の事務にご確認いただければよいと思います。

ローカル線で行く！フーテン旅行記 第77回

天空に広がる世界遺産！ 高野山（前編）

工学部職員組合 大西孝

紀伊山地に忽然と現れる山上の宗教都市、高野山。弘法大師が開いた金剛峯寺や、数々の武将のお墓がある奥之院の参道が有名で、お盆には多くの参拝客や観光客で賑わいます。高野山へ向かうには南海電鉄の特急「こうや」号が便利ですが、今回は沿線の風景をゆっくり眺められる急行電車で訪れます。

南海高野線は、大阪の難波駅から和歌山県の橋本駅を経て、高野山の極楽橋（ごくらくばし）駅を結ぶ60km余りの路線です。大阪府内では堺市や河内長野市を走るため、通勤通学の乗客が多いものの、橋本駅から先は高野山へ分け入るため、急な坂やカーブで深い木々の間を縫うように電車はゆっくりと走ります。このような山岳区間に対応するために、橋本から高野山へ乗り入れる電車は、南海電鉄の通常の電車よりも小型で乗降用の扉も片側に2か所しかないうえに、急な坂にも対応した特殊な車両を使っています。そのため、乗客が多い大阪市内まで乗り入れるのは不向きで、今では難波駅から極楽橋まで直通する列車は、特急電車を除くと平日に3本、土日は朝の1本（難波 9:23→極楽橋 10:55、急行）しかなく、ほとんどは橋本駅で乗り換えが必要です。土日の朝の貴重な極楽橋行きの急行電車は、堺東・金剛・河内長野と大阪のベッドタウンの駅に停車しながら河内平野を快走します。紀見（きみ）峠を越えて和歌山県に入り、林間田園都市まで来ると沿線は田畑が広がり、ずいぶん長閑な風景になり、

難波から約50分で橋本駅へ到着します。ここまでは8両編成でしたが、後ろの4両を切り離し、身軽な4両編成になって高野山への細道へ挑みますが、車内の乗客はまばらです。橋本駅から2駅目は「学文路（かむろ）」。この駅の入場券は受験生に人気です。続く九度山駅は、真田幸村が関ヶ原の戦いの後で暮らした地域にあり、駅のあちこちに真田家の家紋である六文銭が見えます。次の高野下駅からはいよいよ山岳区間に差し掛かり、4両編成の電車は急カーブで車輪をきしませながら、時速30km程度で高野山へ向かって高度を上げていきます。途中の駅の周辺では、大きく窪んだ谷の向こうの崖に立つ住宅が見え、こんな山深いところまでよく戦前の1929年（昭和4年）に線路を敷いたものだと感心します。高野下から森林の中をゆっくり走ること約20分、谷間のわずかな平地に作った極楽橋駅へ到着します。

ここからはケーブルカーと路線バスを乗り継ぎ、金剛峯寺や奥之院（弘法大師御廟）がある高野町の中心部へ着きます。まずは奥之院にお参りするために、「一の橋口」という停留所でバスを降り、うっそうと木々が茂る参道を歩きます。この2km程度の参道の左右には無数のお墓があり、有名な戦国武将（例えば織田信長や武田信玄）や多くの大名家の墓があり、歴史の教科書に出てくる面々も何となく身近に感じられます。荘厳な雰囲気は漂う奥之院に参拝した後は、バスターミナルがある中の橋へ向かう参道を歩きますが、こちらは木々が無く明るい雰囲気です。この参道沿いにはお墓の他、有名企業の石碑や慰霊碑も多く鎮座しており、コーヒーカップ（缶コーヒーのメーカー）、ミニロケット（重工系の企業）、頭を下げる羽織袴の石像（足袋屋さん）など、奥之院とは違った世俗的な雰囲気が感じられ、この対比も面白いものです。今回は「壇上伽藍」をご案内します。



真田幸村ゆかりの九度山駅。ホームの屋根にも六文銭が見えます。



山深い地域を走る高野下から極楽橋の区間。途中の駅で対向列車とすれ違います。小さな駅でも駅員さんが直立不動で列車の到着を見守っています。



極楽橋が近づくと、このような風景も。大阪から1時間少々とは思えない山深い地域を走ります。



列車の前方を眺める。急なカーブと坂で高野山へ向かいます。速度は時速30km程度しか出ません。